

# 研究基本要領

## ACT- 未来を拓く 新事研

### 研究主題

「地域とともに学校を創造する学校事務の追究」

新事研は、子どもも大人もいきいきと活躍する

楽しい学校づくりを目指します

学校は、地域の拠り所であり、子どもも大人も「いきいき」と活躍できる場所でありたいと考えます。

そのためには、学校にかかわるすべての人が気づき、考え、**行動（Action）**し、学校の教育目標達成に向けて業務の在り方を見直し、**改善（Act）**していくことが大切です。一人一人の行動が、組織を**活性化（Activate）**することにより、学校は子どもも大人もいきいきと**活躍（Active）**できる場所になると考えます。

新しい学習指導要領の下、社会に開かれた教育課程実現のため、学校ではその取組が始まりました。—社会の急速な変化により、予測困難な時代を生きる子どもたちに、それぞれの思い描く未来を実現してほしい。そういった明るい未来を共に拓きたい—。

研究基本要領は、研究主題に沿ってどのように考え、どのような活動をしていくのか、具体的方策等を示した「活動宣言」です。これまでの方向性を継承しながら、時代の変化と社会の要請を真摯に受け止め、様々な「**ACT**」を意識した具体的行動方策を実行していきます。そして、地域とともに、一緒に考え、語り合い、創造し、子どもも大人もいきいきと活躍する楽しい学校づくりを目指していきます。

### ACTに込められた思い

ACTは、行動を意味する「Action」、改善を意味する「Act」、活性化を意味する「Activate」、活躍を意味する「Active」それぞれに共通する文字に由来します。新事研がこれまで大切にしてきた実践につながるキーワードとして、これからも「実践」を通して、学校にかかわるすべての人が“つながり”続けられるような願いが込められています。





# ACT. - 地域とともに学校を創造する学校事務の追究 -

## Story 子どもも大人もいきいきと活躍する楽しい学校づくりを目指す

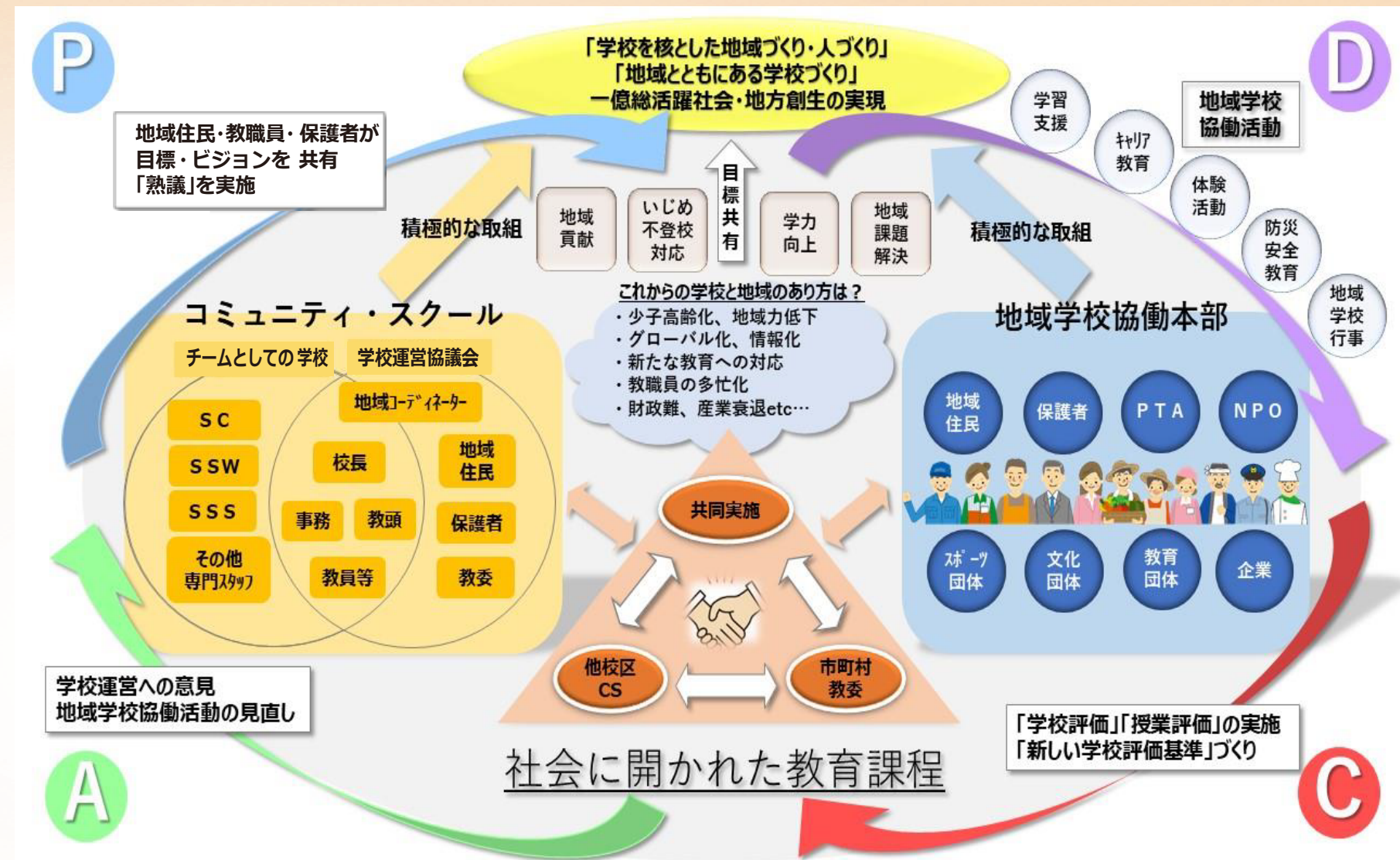
### これからの学校と地域

**研究主題**  
**-地域とともに学校を創造する学校事務の追究-**において

「予測困難なこれからの時代を生きる子ども」を育む新学習指導要領が、小学校で完全実施となった2020年、世界の経済競争とグローバル化や、AI技術の進展などによる情報化が、社会構造に大きな変化をもたらしています。一方で、少子高齢化や若者をはじめとした地方の人口流出による限界集落が増加し、地域力の低下を招いています。

子どもたちが学ぶ学校においても、生徒指導上の諸課題への対応をはじめ、学校が対応しなければならない課題が一層多様化・複雑化し、教職員の多忙化を招いています。多様化・複雑化する課題に目を向け、社会の変化に対応していくために、学校はコミュニティ・スクールという制度の活用により、地域とともに手を取り合い、様々な人とつながり、「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」を進めることで、そこにかかわるすべての人が、いきいきと活躍する社会の実現につながると考えています。

新事研は、学校に求められる社会の要請に応じていくために、研究主題達成に向けて、私たちのもつ強みを活かし、様々なつながりを意識し、継続的かつ発展的に、「安定と挑戦」の学校事務を追究していきます。



### 「学校を核とした地域づくり・人づくり」推進に向けた学校事務職員の役割

- コミュニティ・スクール**
- ・学校運営協議会の連絡調整・予算管理等
  - ・熟議をととしたカリキュラムマネジメント
  - ・広報活動（学校運営協議会たより等）
  - ・ボランティア活動体制等の構築
  - ・「新しい学校評価基準」づくりへの参画
  - ・学校評価の集計→地域への広報活動

- 共同実施（共同学校事務室）**
- ・各单位CSの情報を共同実施で共有
  - ・市町村単位での人材リスト等の作成
  - ・全地域住民への広報・啓発
  - ・地教委、総合教育会議への意見具申
  - ・CS事務局業務等の標準化
  - ・地域学校間連携の拠点

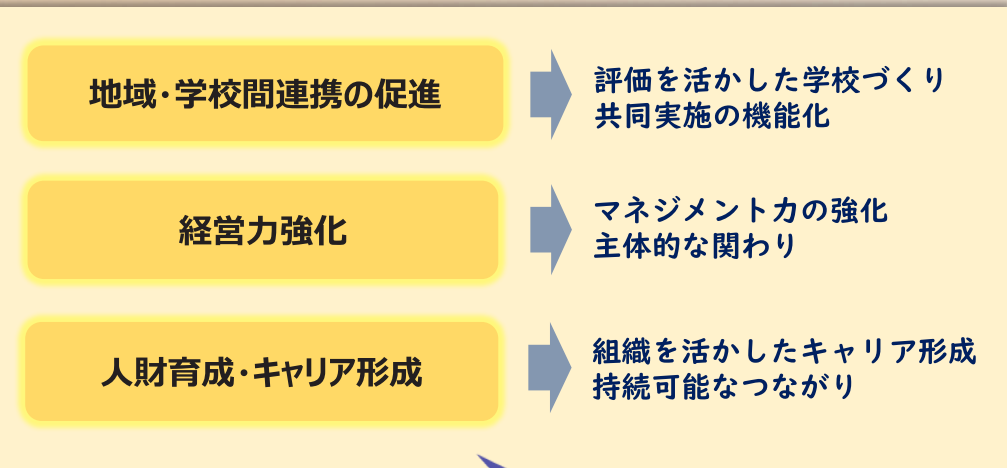
学校と地域をつなぐ  
 コーディネート機能

**他校区CS、市町村、県を巻き込んだ取組へ！**



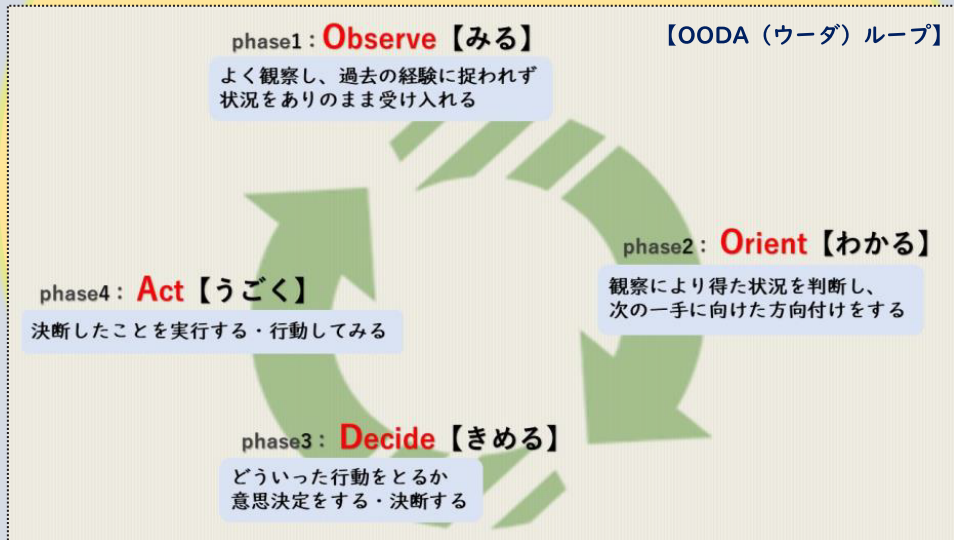
# — 学校・地域の「組織力」を高める力へ —

研究基本要領2015「3つの戦略」をより一層推進することで、実践を促し、組織力を高める力へつなげます



新事研の目指す研究とは、「日々の実践」から始まる。  
-気づきから始まる日常業務の改善そのものが研究-

## 実践に向けた決断を促す



**実践につながる「決断力」**  
目の前の小さな決断と改善を日々繰り返す中で、その積み重ねが組織の活性化や改善につながる大きな決断力につながります。

### ACT.01

#### 地域・公共 Public 共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用した学校間連携の推進



#### 公共の担い手として、社会の要請を意識する

校区内の地域人材や予算、地域素材等の情報を収集・整理・発信することが、地域の力を学校のために活性化させるきっかけとなり、社会に開かれたカリキュラムマネジメントの推進につながります。また、コミュニティ・スクールでの役割として求められる「新しい学校評価基準」づくりへの参画に向けて、学校評価の集計や分析に関わることが大切です。

#### 共同実施（共同学校事務室）を地域とつながる拠点に

社会の要請を意識し、つながりを創り出すためには、共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用し、コミュニティ・スクールや学校地域協働活動に関わっていくことが大切です。ひとりではできないことをつながりを活かして取り組むことで、学校を核とした地域づくりの推進につながれると考えます。

### ACT.02

#### 経営 Management マネジメントを推進するために必要な“チカラ”

#### 挑戦するために、組織的に問題解決していく力（ノンテクニカルスキル）

**物事の本質を見極める“チカラ”（コンセプチュアルスキル）**  
物事を概念化して的確に捉える 抽象的な物事に対して創造的に取り組む 明確に将来ビジョンを描く  
**対人関係を良好にしていく“チカラ”（ヒューマンスキル）**  
対立する意見を調整する 自分の考えを正確に伝える 他者の考えをより正確に引き出す

組織で問題解決するために必要な  
・物事を正しく「考えるチカラ」「伝えるチカラ」 ・他者と正しく議論し「決めるチカラ」「動かすチカラ」

#### 安定した事務機能を提供するために必要な力（テクニカルスキル）

与えられた業務を適切に遂行するために欠かせない知識や技術・能力  
事務処理能力、PCスキル、文書・資料作成能力など

### ACT.03

#### 人財 Human Resources 学びを発展させるナレッジマネジメント※の確立

#### 学校での役割と共同実施（共同学校事務室）での役割の明確化

校内では、企画委員会や運営委員会などの学校経営について協議する場に参画することで、自校の現状と課題を把握し、ともに改善を進めていくことが大切です。また、マネジメントを推進する人財を育むためには、グループ連絡会議等のしくみを見直したり、改善したりすることで、共同実施（共同学校事務室）を個々の学びの場としていくことが大切です。

#### 運営部、支部それぞれの役割を“みえる”化

学校や共同実施（共同学校事務室）での実践を推進するには、様々な実践（学び）をつなぎ、さらなる実践に結び付けていくことが必要です。そのために、運営部や支部の役割を明確にし、様々な実践を共有したり、つないだりしていく役割を担っていきます。

※ナレッジマネジメントとは、組織や個人が蓄積した知識や経験を共有し、効果的に活用することで創造的な仕事につなげることを目指す経営管理手法です。



### 3つの戦略を具体化する – “つかさどる”時代の学校事務職員 –

#### 「事務をつかさどる」学校事務職員とは

新潟県では、学校教育法等の一部改正により学校事務職員が主体的に校務運営に参画するよう職務規定が見直されたことを契機として、標準的職務が改正されました。

「つかさどる」には、『学校における「教育以外のすべて＝事務」を管理したり、関わる人の相談に乗ったりすることで、責任を伴う立場を担う』意味が込められています。

「判断」し「決断」することで、そのときの状況を瞬時に把握し、今一番最適な解は何かを決断し、対応するという行動が必要となってきます。

経験年数を問わず、最適解を導くための日々の小さな決断の積み重ねが、組織をより活性化させたり、改善したりするための大きな決断力につながります。そして、その決断力は、学校だけでなく、共同実施（共同学校事務室）の中でも身に付けていくことで、学校経営に生きてくると考えています。

**事務をつかさどるために**  
実践するための**決断力**を高めていこう

実践と経験により、  
キャリアアップを目指す



#### 学校・地域の「組織力」を高める -学校事務職員を育成する「キャリア・ラダー」-

“キャリア・ラダー”とは、キャリアアップのためのはしごを意味する造語で、キャリアにおける道筋を示し、将来の自己のキャリアイメージを明確にするためのものです。

#### 標準的職務通知に基づく職位別の役割と省令事務長・事務主任の役割

	主事（事務員）	主任・主査	事務主幹	総括事務主幹
	<b>基礎力</b>	<b>調整力</b>	<b>企画力</b>	<b>統括力</b>
学校での役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務分掌の職務を適正に遂行しながら、他の職員との関わりを通して標準的職務への参画を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職や主任と協働することで、ともに教育改善を進め、自校の課題解決を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営者感覚をもって、教頭とともに校長を支えながら、学校経営に責任をもち、校内運営事務を統括し、教育改善を中心となって進める。</li> <li>共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用し、地域学校間連携に取り組む。</li> </ul>	
共同実施（共同学校事務室）での役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同実施（共同学校事務室）のしくみを活用して、自校の学校事務の課題解決を図る。</li> <li>ミドルリーダーとして、人材育成に積極的に関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同実施（共同学校事務室）の責任者として、事務主幹とともに各校の学校経営に寄与する。</li> <li>サブリーダーとしての役割を担うことで、人材育成に責任をもつとともに、他校の経営に関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同実施（共同学校事務室）の経営者として、しくみを活用したり、見直したりして各校の学校経営に寄与するとともに、自校だけでなく、兼職発令校の学校経営方針の策定に積極的に関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリアにおける経営や、様々な組織と連携することを通して、教育行政全体をつかさどる経営を行う。</li> <li>エリア内の共同実施（共同学校事務室）を地域における学校間連携拠点として機能させるためのしくみを構築する。</li> </ul>

#### 事務主任の役割

校内における事務処理を行う上で、その経験等を基に、教諭やその他の職員に対して連絡調整をしたり、指導・助言を行う役割を担います。

#### 事務長の役割

事務決裁規程の整備を行い、教頭との役割分担を明確にした上で、事務職員その他の職員が行う事務を総括する役割を担います。

学校事務職員のキャリアイメージを明確にし、様々な実践や研究活動を通じて、地域とともに主体的に学校づくりを進める学校事務職員を育成します

新事研は、「学びの循環型組織」を目指し、それぞれの役割を意識して活動します

#### 支部活動

運営部等が推進している活動を積極的に取り入れたり、他支部と連携を図ったりしながら、支部内の各校や共同実施（共同学校事務室）と連携・協働を図り、学校現場での実践と決断を促す活動を推進する。

#### 会員の取組

自身の気づきをきっかけとして、多くの実践を行い、それを様々な人と共有することで、新事研活動や共同実施（共同学校事務室）での情報や知識となり、さらに新たな行動への決断や学び、気づきへのきっかけにつなげる。

#### 理事会

新事研活動の方向性を決定し、運営部等や支部と連携し、会員及び関係諸団体とのつながりを感じられるような組織へ発展させていくための中心的な役割を担う。

#### 総務部

安定した新事研活動を進めていくための総務、財務、渉外をつかさどり、運営部等や支部との連携調整を図る役割を担う。

#### 研究部

挑戦できる新事研活動を進めていくために、社会の要請や現状と課題、会員の実態を情報収集しながら、実践をつなぎ、言語化・理論化することで、会員の学びが学校や共同実施（共同学校事務室）で活きるように導く役割を担う。

#### 学校事務の手引き作成委員会

「学校事務の手引き」作成を通して、**学校事務の適正化・効率化**を進める。

#### 事務主幹等研究研修委員会

リーダー層の資質向上を図り、**学校事務職員制度を安定**させ、学校教育の充実を図る。

#### 新事研・支部・会員それぞれの実践を活性化させるための重点項目

### ACTIVATE MISSION!

ACTIVATE MISSION（アクティベート・ミッション）は、社会情勢や学校を取り巻く現状と課題を踏まえ、支部活動だけでなく、共同実施（共同学校事務室）や個人での取組における項目としても活用するほか、新事研の研究研修内容にも取り入れます。



支部だけでなく、共同実施（共同学校事務室）でも、個人でも取り組めるところから実践してみよう

実践 共有



## つながりを感じられる新事研を“ACT”する

新事研活動のさらなる推進には、関わるすべての人が「つながりを感じられる」ことが大切であると考えています。

- 学校や共同実施（共同学校事務室）で、学校に関わる様々な人とつながる。  
支部活動では、共同実施（共同学校事務室）など、様々な組織とつながる。  
- そして、新事研の活動を通して、他の市町村や他の支部の人とつながっていく。 -

新潟県教育委員会は、「第3次新潟県生涯学習推進プラン」において、「生涯学び活躍できる循環型生涯学習社会」を目標に掲げています。変化の激しい時代を生きていくためには、学び続ける動機付けと意識の向上のために、自ら学んだことを活かし、その成果を地域に役立てるしくみづくりが必要であるとし、地域の教育力を高めるための方策や方向性を示しています。

学校と地域の組織力を高め、研究主題である「地域とともに学校を創造する学校事務の追究」の推進のために、この考え方を応用し、個の学びがつながり、循環させていくことを目指していきます。



### 学びの循環による、 ナレッジマネジメントの確立

つながりを感じながら、  
それぞれの学びがみんなの学びになり、  
さらなる学びに発展していく



先の見えない時代において、それぞれ異なる課題に対して行動するために、新事研はどのような役割を果たし、そして、会員にとってどんな組織であり続けるのか。

研究基本要領の改訂は、私たちの進むべき方向を考え、そこに関わるすべての人が議論するためのきっかけのひとつとなってきました。これからも、その役割は変わることはないと感じています。

考え、議論し、そして実践・行動することの大切さは、実践家である学校事務職員が一番大切にしてきたことです。

時代は変わっても、目的や本質を見失うことなく、人と人とのつながりを感じながら実践や行動であるべき姿を示していく。そして、次世代を担う若手が、その思いを語り、行動につなげられる。そんな持続可能な組織でありたいと考えています。

物事の本質を見失うことなく、これまでの慣例にとらわれない、会員、共同実施、支部等の実践を進め、それらを基に議論することで、新たな組織開発のはじまりをこの「ACT」から進めていきましょう。

令和3年発行



新潟県学校事務研究協議会

新事研HP <http://shinjiken.ngt.ed.jp>

